

こども本の森 外観



きぼうの虹

KIBO NO NIJI

秋号

発行所

北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 二面・三面 ニホンザルこぼれ話 第18話
四面 きぼうの虹フォトコンテスト審査結果発表!!
八面 大学文書館へ行く 第29回

8月1日、北海道大学構内に「こども本の森 札幌・北大」が開館しました。

「こども本の森」は、世界的な建築家である安藤忠雄氏の「こどもたちに多様な本を手にとってもらい、無限の想像力や好奇心を育んでほしい」「自発的に本の中の言葉や感情、アイデアに触れ、世界には自分と違う人や暮らしがあることを知ってほしい」という願いから生まれた図書施設です。このたび開館した「こども本の森 札幌・北大」は、2022年に安藤氏から本学へ寄せられたご提案から始まりました。安藤氏ご自身が設計・建築費を負担して完成した建物を本学へご寄附いただき、北海道大学創基150周年記念事業の一つとして実現したものです。

安藤氏による「こども本の森」は、これまで全国に5館設置されており、「こども本の森 札幌・北大」は6館目となります。森の中に立つ大きな木を思わせる書棚には絵本や児童文学だけでなく、科学、自然、歴史、芸術など、子どもから大人まで幅広い世代の知的好奇心を刺激する多彩な本が並んでいます。きっと、スマートフォンの検索だけでは出会えない、思いがけないさまざまな知と巡り合うことができます。

「こども本の森 札幌・北大」オープン

北海道大学
学術情報部長
久保田 壮活

Opinion!



「こども本の森 札幌・北大」と他の「こども本の森」との大きな違いは、大学構内に設けられていることです。社会との共創を進める北海道大学が「本の森」を通じて地域や社会とのつながりを深め

生涯学習や世代間交流を推進する取り組みには、大きな期待が寄せられています。

北海道大学構内に立地するという独自性を活かし、子どもたちが本をきっかけに本学の研究者や学生、さまざまな教育・研究資源と出会うことで、学びの楽しさや奥深さを感じられる新たな機会が生まれることも期待されています。

「本の森」を起点に、時には「本の森」から外に出て子どもたちに

本学の知の現場に触れてもらう「学びのプログラム」など通して、キャンパス全体が豊かな学びの場として広がっていくことでしよう。

創基150周年という北海道大学の大きな歴史の節目に生まれたこの施設を、これから何世代にもわたって子どもたちにとって魅力ある学びの場として育てていく必要があります。そのためには、支えてくださる皆さまからの継続的なご支援が欠かせません。本学では「フロンティア基金」や「ふるさと納税」を通じた支援の仕組みを整えており、いただいたご寄附はプログラムの充実や施設環境の整備などに活用されます。

教職員の皆さまにも、ぜひその理念や活動に関心をお寄せいただき、温かく見守り、応援していただければ幸いです。ともに、未来を育む場を支えていきましょう。

「こども本の森 札幌・北大」は、子どもにとって楽しい学びの場であるのももちろん、大人にとっても学びがあり、一瞬のうちに子どもだった自分を取り戻せるような素敵な空間だと感じているだけではありません。

子どもも大人も時を忘れてワクワクできる「本の森」の中へ、皆さんも迷い込んでみませんか。

Edo LinK 風張 喜子
地域個体群研究会
北海道大学文書館 井上 高聡

ニホンザル こぼれ話

■第18話■

えぞりんく EzoLin-K・地域個体群研究会 風張 喜子



マッサージ(?)に見る猿間模様

みなさん、マッサージはお好きですか?わたしは(もっと)若いころは肩凝りがひどくて、よくマッサージ店に通っていました。趣味でボルダリングを始めたからは、肩こりとはサヨナラできましたが、一時、オイルマッサージにはまりました。ゴリゴリの凝り解消マッサージもいいですが、優しいオイルマッサージは、手のぬくもりでなんだかほっこりして、何とも言えない心地よさです。

マッサージには、凝りやむくみの解消だけではなく、人に触

れてもらうことで、不安や苦痛が和らいだり、安心したりする効果があるのだとか。生理学的にも、ストレスホルモンが減って幸せホルモン分泌が増えたり、リラックスして心拍数が低下することが報告されています。医療の現場では、患者さんのストレスや苦痛を和らげる手段のひとつとしてマッサージの導入が進んでるそうです。たしかに、手術前のオイルマッサージがサービスメニューにある病院があつたつけ。最近では、メンタルヘルスの分野でも注目されているそう。

さて、サルの世界の“マッサージ”…といえば、毛づくろいでしょか!?以前にもご紹介しましたが、毛づくろいすることで、体が清潔に保たれていいます。それだけではなく、群れの仲間から毛づくろいをしてもらうと、やはりサルでも心拍が穏やかになったり

と、リラックス効果があるようです。このリラックス効果・安心感を通して、互いに毛づくろいしあう相手は親しさを保っていると言われています。

ある日、いつもの群れの仲良し姉妹が、毛づくろいをしています。研究者仲間が、「妹ザルは、姉ザルの家族としか付き合いないよね」といふほど、妹は姉にべったり。それほど仲良し姉妹です。この時は、姉が妹を毛づくろいしていました。きっと、お互いにのんびりとした、心地よ



仲良し姉妹。この横顔、そっくりだと思うのは私だけでしょうか!?

いひとときだったことでしょう。そこに、群れで一番強いオスザルがやってきて、姉と一緒に妹を毛づくろいし始めます。微笑ましい光景です。ところが、妹を毛づくろいするオスザルの手元を、姉はちらちらと気にしている、と思つたら、おもむろに毛づくろいの手を止め、妹をつき飛ばして追いやってしまいました。そして、何事もなかったかのように、その場に残ったオスザルの毛づくろいを始めます。ひどい…と思われるかもしれませんが、こんな光景は日常茶飯事です。

実は、ニホンザルでは、群れの中での力関係(猿間関係)が自分よりも強い相手との毛づくろいが好まれがちです。実際、仲良くなったサルからは、喧嘩をふっかけられたりせず、寛容に接してもらえようです。毛づくろいのリラックス効果は、猿間関係の潤滑油にもなっているというわけです。とすると、オスザ

いじわるじいさん

BSTテレビ東京の「ワタシが日本に住む理由」を興味深く見ている。日本茶を極めるスウェーデン出身のオスカルさん。大正浪漫に魅せられベルギーから来たサスキアさん。彼らは求道者のように、腰を据えて日本の魅力を追求する。▼日本好きの彼らから、気付けずにいた我が国の魅力を教えてもらった。受入れについて、本格的な検討を始めたというので不安がよぎる。▼例えば、起業家向けの「経営・管理ビザ」。取得に必要な資本金を、従来の500万円から3000万円へ引き上げるといふ。オスカルさんの日本茶販売も関係するのだろうか。我が家の近くの中華飯店は大丈夫だろうか。▼この10年で、就労目的の外国人は3倍に増えた。建築、農水産業の生産現場や加工場、介護など、人手不足に悩む現場で働き私達の暮らしを支えている。その彼らの在留審査手数料は6000円から、在留期間を7段階に分け、1万〜7万5千円に値上げする。家族の人数分が必要だ。▼永住許可要件も、日本人世帯の平均以上の年収を求めるなど厳格になった。彼らなしでは機能しないのが今の日本の実態だろうに、あらゆる基準が厳しすぎないか。日本は彼らから選ばれない国になるのではないか。近く中華飯店に、「大丈夫?」と、聞けないでいる。(今日子)

ルとの毛づくろいは、彼を癒して親しい関係を深めるいい機会。当の本人（本猿）たちがそんなことを考えているハズがありませんが、姉は、オスザルとの毛づくろいを独り占めしたくて、妹を叩き出したのかもしれない。あんなべったりの仲良し姉妹でも、現金なもんです。

サルは心理をあこれ想像するのは楽しいですが、科学的に「どれくらい癒やされているか」を調べるのは一苦労。動物たちのストレスやリラククス度をホルモンから調べるには、尿や糞、毛など痛い・怖い思いをさせずに手に入られるものがサンプルになります。たとえば、幸せホルモン的一种、オキシトシン。ストレスを軽減するだけでなく、相手に対する愛着をはぐくむことから「愛情ホルモン」と



メスたちから毛づくろいを受ける、強いオスザル。

も呼ばれています。オキシトシンを分析するには、尿を採取するのですが、それがものすごく大変と言われています。研究者仲間の一人がチャレンジしましたが、木の上でされれば飛び散ってなかなか集められないし、地面でもすぐにしみ込んでいってしまうし：と、とても苦労したそうです。

野生のサルのホルモンを分析するのはとても大変です

が、行動からストレス・リラククスの度合いを知ることもできます。わたしたちも、緊張すると無意識にやっしてしまうことってありますよね？ 気が付いたら髪をいじっていたり、貧乏ゆすりしていたり。これで、不安やイライラなどの緊張を紛らわしています。サルでは、貧乏ゆすりや髪いじりかわりに「ポリポリ」と体を掻く動作が見られます。だから、この「ポリポリ」を観察すれば、リラククスの度合いを知ることができるというわけです。

毛づくろい中のニホンザルの「ポリポリ」を観察した研究によると、毛づくろいをしてもらう時は、相手が普段からの仲良しでもそれほどなくても、リラククスできるんだそうです。毛づくろいをしてあげるほうにとってはどうかという、仲良しの相手だとリラククスできるけど、そこまで仲良くない相手だと、あまりリラククス効果はないみた

いです。気心の知れた家族の肩をもんであげるのと、気を使う上司の肩をもまれる時の違い、みたいな感じでしょうか。緊張しながら気を使う相手にマッサージをするのは、やっぱりサルにとってもちよつとストレスなのかもしれません。では、ヒトの場合はどうでしょう？



「ポリポリ」。首や頭を掻くときは、手じゃなくて足で。

を思いやる心」にも反応するホルモンなのだそうです。

思いやりの気持ちで増えるオキシトシン。お互いを思いやることで、わたしたちはストレスフリーでハッピーに暮らせるのかもしれませんが、いつでも、誰にでも、というのは難しそうですが、心がけてみてもいいかもしれません。でも、マッサージは、わたしはやっぱりしてもらうほうが好きだな（笑）。

マッサージで幸せホルモンのオキシトシンの量がどう変わるか、マッサージする側とされる側で調べてみると、なんと「相手を心地よくしてあげたい」という思いやりを持つて触れる場合、マッサージをする側の人もオキシトシンが大きく増えるのだそうです。気を使うだけの「接待」ではストレスになりますが、「相手をほぐしてあげたい」と心を込めることで、してあげる側の脳内でも幸せホルモンが溢れ出す。オキシトシンは、スキンシップだけでなく「相手

第13回フォトコンテスト「北大百景2026」審査結果発表!!

審査員：生協学生委員会、生協院生委員会、留学生委員会、生協教職員委員会

特選および各賞入賞者の皆さんには、生協電子マネーポイントを贈呈いたします。

「きぼうの虹」フォトコンテストも今年で13回目となりました。7月1日から8月31日までの約2か月の応募期間で開催いたしました。学生、職員の皆様から構内様々な場所の美しい風景が多く寄せられました。全27点の素晴らしい作品の中から各審査員それぞれの感性に響いた作品として、特選1点、各委員会賞4点を選出いたしました。ほかにも素晴らしい作品が多く、今回全てをご紹介できないのが本当に残念です。応募していただいた皆様、本当にありがとうございました。

特 選

初夏、北の地で 鈴木 惇史 (学部生)

入学当初は枝だけだった銀杏が、青々とした葉をつけている姿を見ると、爽やかな夏の兆しを感じさせてくれる。どのようにその表情を変えていくのだろうか。学生生活の楽しみが、一つ増えた。

●審査員コメント

頭上を覆う新緑のイチョウ並木とその枝の間から路面に差し込む木漏れ日、そして右奥へ伸びていく構図が美しく、この時期のキャンパスの爽やかな空気を感じさせてくれる一枚です。自転車もいいアクセントに。



学生委員会賞

初冬の中央ローン 土肥 育歩 (学部生)

中央図書館に行く途中に何気なく中央ローンを見たら、薄く積もった雪とサクシュコトニ川に映った夕日がとても綺麗で、思わず撮りました。

●審査員コメント

大学内に川がある自然豊かさ、構内に雪が積もる光景は北大ならではの象徴的な景色であり、川面に夕日が反射しているのも素敵だと感じ、学生委員会賞とさせていただきます。



院生委員会賞

道しるべ 田邊 陽子 (学部生)

北海道ワイン教育研究センターを背景に咲くオオアマナ。建物の佇まいと花の色が美しく調和し、爽やかな春の訪れを感じさせます。オオアマナの英名は「Star of Bethlehem(ベツレヘムの星)」。かつて東方の三博士をイエス・キリストのもとへ導いた聖なる星と、北海道ワイン産業の未来を照らし導く研究センターの姿が、静かに重なり合います。

●審査員コメント

背景の北海道ワイン教育研究センターに咲くオオアマナは、花言葉に表すように純粋さを象徴します。アルコールには長い歴史があり種々の側面をもちながらも、ワインに向き合う北大の真摯さを対比から印象付けます。



留学生委員会賞

空の唄 野口 真司 (教員)

工学部の直線的で幾何学的な構造物と、夕暮れ時に激しく表情を変える空。その対比の中に、空が自由に歌っているような力強さを感じて撮影しました。

●審査員コメント

夕暮れの鮮やかな空のグラデーションと工学部の建物の対比が、まるで絵画作品のようで印象に残りました。力強い雲の連なりから本当に歌声が聞こえてきそうな一枚ですね。



教職員委員会賞

祝150周年 川口 徹野 (大学院生)

研究室で作業を終えて深夜に帰宅する時に撮った写真です。祝150周年。

●審査員コメント

夜空に鮮やかに輝く紅葉が美しい1枚です。150年の時を重ねても変わらない自然の美しさと、それを照らす光が北大の歩んできた歴史と未来への希望を感じさせます。



SDGs

連載 第14回

社会的インパクトを読み解く ― 投資・評価・大学改革の現在地

北海道大学SDGs事業推進部門 教授 加藤 悟



近年、「社会的インパクト」という言葉が広く使われるようになった。その背景には、大きく二つの流れがある。

一つはインパクト投資に代表される投資分野からの流れである。従来の投資判断では「リスク」と「リターン」が重視されてきたが、近年はそこに「社会的インパクト」が加わった。どのような社会的価値が期待できるかを考慮しながら資金配分を行う考え方である。もう一つは、行政、教育、研究などの公共的事業評価からの流れである。こちらは事業実施後に「何が変わったのか」を検証し、説明責任を果たすとともに事業改善につなげることを目的としている。

出発点は異なるものの、両者とも社会にもたらされた変化を重視する方向へ収斂している。ただし、投資分野は将来期待される変化を見て意思決定を行うのに対し、公共評価は実際に生じた変化を確認し、その成果を説明するために用いられる。

社会的インパクトを理解する上で重要なのが、「アウトカム」と「インパクト」の区別である。変化には、人の意識や行動の変化、組織の変化、制度の変化、社会全体の変化という段階がある。公共評価では、人や組織の変化をアウトカム、制度や社会全体の変化をインパクトとして整理することが多い。一方、投資分野では社会の変化全体をインパクトと呼ぶことが多いが、実際には人や組織に生じるアウトカムを観察しながら、将来的なインパクトの可能性を判断している。

こうした変化を説明するために活用されるのが、ロジックモデルとTheory of Change(ToC)である。ロジックモデルは、「インプット → 活動 → アウトプット → アウトカム → インパクト」という流れを示し、事業がどのように成果へつながるかを可視化する。一方、ToCは「なぜその変化が起きるのか」に着目し、変化の主体や前提条件、仮説を明らかにする。両者は相互補完的な関係にあり、投資家は投資判断のために、公共評価では事業検証のために活用されている。

さらに近年注目されているのがIMM(Impact Measurement and Management)である。IMMは単なる評価手法ではなく、社会的変化を測定し、その結果を意思決定や改善へ結び付けるマネジメントの考え方である。計測、学習、改善を繰り返しながら、必要に応じてToCそのものを見直していく。いわば社会的インパクト版のPDCAサイクルと言える。

社会的インパクトを評価する際には、ReachとSignificanceという二つの観点が重要である。Reachは「どれだけ広く届いたか」、Significanceは「どれだけ意味のある変化が起きたか」を示す。利用者や対象地域が増えても変化が小さければ意義は限定的であり、逆に対象が少なくても大きな変化を生み出せば高い価値を持つ。したがって、社会的インパクトを高めるには、広がりと変化の深さの両方を意識する必要がある。

さらに近年のインパクト投資やIMMでは、Contribution(その事業が変化にどの程度貢献したか)、Duration(変化はどの程度持続するか)、Risk(期待した変化が実現しないリスクや副作用はないか)といった観点も重視されている。

一方、Times Higher Education(THE)のSustainability Impact Ratingsは、大学の研究、教育、社会連携、組織運営を対象にSDGsへの貢献度を評価する仕組みである。ここでの「Impact」は社会変化そのものを直接測定するというより、大学がSDGs達成にどのように貢献しているかを評価する枠組みと理解する方が適切である。

したがって、大学が真に社会的インパクトを高めようとするのであれば、ランキングの向上だけを目指すのではなく、自らの研究や教育が社会にどのような変化をもたらしているかを問い続ける必要がある。人の変化が組織の変化を生み、組織の変化が制度の変化へつながり、最終的には社会全体の変化へと波及する。その変化の連鎖を生み出す触媒となることこそ、大学に求められる社会的インパクトの本質ではないだろうか。



※AIを活用して作成

クラーク書籍便り

Vol.28

クラーク6月・7月一般書ランキング

3位「夏帆」は著者3年ぶりの長編小説。8位「BUTTER」は著者の要請で版元が新潮社から河出書房新社に変わりましたが、引き続き読まれています。10位「黒牢城」は映画化でも話題に。物語の終盤でさらなるひと捻りが楽しめる、企みに満ちた時代ミステリの傑作です。

	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
1	北大と北大生の150年	北海道大学 150年史編集室	北海道大学 出版会	6	論文から技術文書まで 「AI翻訳」で書く理系英語入門	森弘之	講談社
2	史上最強SPI&テストセンター 超実戦問題集2028最新版	オフィス海	ナツメ社	7	安倍晋三	服部龍二	中央公論新社
3	夏帆	村上春樹	新潮社	8	BUTTER	柚木麻子	河出書房新社
4	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	9	プレゼント	伊坂幸太郎	新潮社
5	法律の読み方がわかる本	白石忠志	筑摩書房	10	黒牢城	米澤徳信	KADOKAWA

院生 NEXTDOOR

第4回

北大生のおよそ3人に1人が大学院生。

「院生の生活ってどんな感じ?」「どんな研究をしているの?」

身近にいるけど、実はあまり知らない院生のリアルを、現役の院生に紹介してもらいました。あなたの身近な院生が登場するかも…?



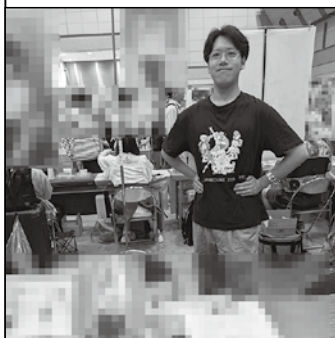
生命科学院

モザイクと光

北海道大学大学院 生命科学院 生命科学専攻 博士後期課程 2年 大塚 隆馬

私は生命科学院の博士課程で、有機化学を専攻している。「新しい触媒をつくり、それを用いて新しい化学反応を開発する」という着想を、実験で示すことが私の研究である。触媒合成と反応開発の両方を成功させて、初めて研究が形になるため、その大変さと日々戦っている。

さて、あなたには秘密はあるだろうか。秘密を抱えて生きるのは苦しい。しかし、他人に嘘のない自分であろうとするほど、かえって言えないことが増える場合もある。私にとって秘密とは、誠実であろうとした末に引き受けた、沈黙のようなものだ。ここからは、私にかけたモザイクの話をしたい。



私は趣味で同人活動をし、お盆休みにはコミックマーケットに参加している。ここに詳細を書くことはできない。就活でもアピールできず、この活動を知る友人も限られている。本当は、それも含めて自分なのだと話してみたい。しかし、何をどこまで明かしてよいかを考えると、いつも口を閉ざしてしまう。研究とは、未知に光を当て、明らかにする営みである。その一方で私は、「他人に明かせないもの」を積み重ねている。それでも、その時間が私の人格と青春を形づくる、大切な一部であることに変わりはない。

モザイクは、近くで見れば何かを覆い隠すものである。しかし、少し離れて眺めれば、一つひとつの断片が集まり、別の像をつくっていることがある。『スイミー』にたとえるなら、この活動は大きな魚の「目」のようなものだ。今は輪郭の見えない経験も、いつか遠くから振り返れば、あなたを形づくる異彩になっているかもしれない。モザイクは何かを隠すだけではなく、その人にしかない光を返すことがある。

ほけんのお話

熊本地震、千葉や埼玉の豪雨、そして茨城の地震と自然災害が続いています。もはや、地震や豪雨による大きな災害はどこで起きてもおかしくありません。自宅や家財など生活基盤を奪われた際の精神的・経済的負担を軽減するために、行政による「公助」だけでは不十分で、自分自身で生活を守る「自助」が不可欠です。

ひとつは社会インフラとしての損害保険です。地震保険は契約しているだろうか。自宅が壊れなくても家財が損害を受けます。火災保険の契約はどうだろうか。火災、風雪、大雨による損害に備えることは必須です。契約している自動車保険の車両保険はどうだろうか。車両保険に入っていれば大雨による車の損害は補償されます。契約していなければすぐ契約を検討することをおすすめします。契約していれば、保険証券を確認しながら、補償内容や特約、自己負担金の設定をする中で、損害のどこまでを自力で、どこから保険で賄うのか、代理店と相談してみよう。

もうひとつは、日常的な防災対策です。水や食料、懐中電灯、ラジオ、乾電池、防寒対策、簡易トイレ、停電時の代替暖房はどうだろうか。エアコンの室外機などの電気設備の設置高はどうだろうか。シートベルトカッター付車脱出用ハンマーはあるだろうか。地域のつながりはどうだろうか。町内会や近所付き合いなど、非常時に助け合える関係性づくりも欠かせません。私たちが納めている税金の使い方(国家予算の配分)が、増加している自然災害に見合ったものになっているだろうか。避難所になっている小学校体育館等のエアコンの設置、堤防などの河川工事など防災関連の予算はどうなっているだろうか。武器を購入入しても防災には役に立ちません。原発の安全性はどうだろうか。などなど、考えることがたくさんあります。

どれもお金がかかりますが、準備とお金の見通しが立てば、少しは精神的負担も軽減されるはずです。



北海道協同保険サービス 生協会館店1階

(平日)11:00~17:00 (閉店~土・日・祝・年末年始)

TEL 011-726-0441

FAX 011-746-9065

Eメール hoken.cls@univ.coop

Vol.
48

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■オープンキャンパスで「北大生と話そう」など行いました！

8月2日、3日に行われたオープンキャンパスにて「北大生と話そう」「北大生と歩こう」「北大への羅針盤」という企画を行いました。「話そう」は受験生・保護者が北大生と個別に受験勉強や大学生活について相談できる企画です。「歩こう」は札幌キャンパス内を北大生と散策しながら、雑談や相談ができる企画です。「羅針盤」は北大生の実体験をもとに受験や大学生活について紹介する全体説明会形式の企画です。また今年も受験生応援冊子『NITOVE』の作成・配布を行いました。どの企画の参加者も昨年を上回り、大盛況でした。

■夏の店舗(食堂・購買)企画・共済企画を行いました！

7月中旬から月末にかけて、食堂ではソフトクリームの人気投票企画である「#推しソフト」、購買では眠気を解消できる商品の販売促進企画「爆裂勉強してる」を行いました。また、今年はバッグに防災グッズを詰め込むゲーム「防災バッグ詰め込み競争」を夏の共済企画として実施しました。

院生委員会

■生協ジンを開催しました！

8月5日(水)中央食堂南側緑地にて、生協ジンを開催しました！学部生、院生、教職員、総代の方々が参加し、身近にはない価値観や考え方をを持った人と交流するきっかけとなりました。

参加者は総代を含め学部生8名、院生4名、教職員3名の15名で、生協での取り組みから、学部生同士の話題や研究に関する話題でジンを味わいました！特に学部生は1年生と3年生からの参加があり、隔年では交流が少なかったことから様々な交流が生まれました。

院生委員会の大きな活動は生協ジンを最後に、年度末にかけて院生交流会、Youtube制作、引継ぎへと移ります。残り半年となり終わりが見えてくる時期ですが、次の代にはよりよいもの、よりよい「交流」を残せるように頑張っていく所存です。

次の活動である院生交流会は10月24日に行います！学部3年生以上のご参加をお待ちしております！

留学生委員会

■生協留学生委員会ではこの夏、新たに2つのイベントを企画し開催しました。

●ハイキングイベント

6月20日(土)には藻岩山ハイキングコースにて、ハイキングイベントを開催しました。参加者の皆さんとスタッフ合わせて20名で、およそ1時間30分かけて登頂しました。当日は天候にも恵まれたハイキング日和で、学生同士のつながりが一層深まる楽しい時間を過ごすことができました。



【藻岩山山頂にて】

●ガレージセール

8月4日(火)には北部購買ウコトイセ店イベントスペースにて、ガレージセールを開催しました。本イベントは、学期末の引越しの際に持ち物を手放す学生達が、雑貨や衣料品を安く販売することを目的としています。当日はおよそ15名の学生が参加し、炊飯器や衣類などが販売されました。今後とも学生の皆さんに役立つイベント開催を目指していきます！

教職員委員会

■教職員総代会議…6月9日、7月14日はWEBにて、6月10日は工学部、7月15日には農学部で対面にて開催いたしました。

決算報告や、各学部の利用状況、今後の展開、DICTOOL紹介についての意見を頂きました。

■教職員委員会…6月11日、7月16日に定例会議を開催し、きぼうの虹の編集・全国教職員セミナー参加などについて話し合いました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。毎回Opinionや特集ページなどで、多くの教職員の方にご寄稿をいただいています。

【編集後記】

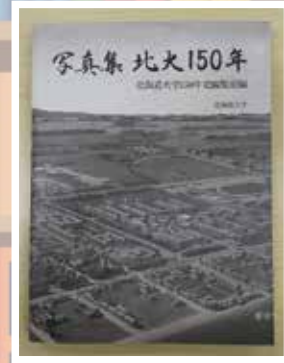
長かった夏もようやく落ち着き、札幌のキャンパスにも秋の気配をわずかに感じられる季節となりました。今号では、「北大・こども本の森札幌」の開館をはじめ、北大百景フォトコンテストや院生の生活、各委員会の活動など、北大における学びや暮らしを彩る多くの話題が紹介されています。保健学科で学生の教育に携わる中で、大学での学びは、授業や研究だけでなく、人との出会いや日々の何気ない経験によっても豊かになることを感じます。生協もまた、食や学び、交流を通して、学生・院生・留学生・教職員をつなぐ大切な存在です。実りの秋、皆さんに新たな発見や出会いがあることを願っています。

大学文書館へ 行こう

第29回

『写真集 北大150年』

北海道大学大学文書館 井上 高聡



『写真集 北大150年』

百五十周年の八月の催し

北海道大学の前身校札幌農学校は一八七六年八月十四日に開校しました。この八月、北海道大学創基百五十周年を記念した催しが目白押しです。八月一日には、建築家安藤忠雄氏が設計・寄贈した図書施設「こども本の森 札幌・北大」のオープンセレモニーを、札幌市長や名誉館長の漫画家ヤマザキマリ氏を招いて開催しました。開学記念日の八月十四日には、農学部時計塔「エルムの鐘」復活鳴動式があり、キャンパスに鐘の音が響きました。八月二十日には附属図書館本館玄関ホールにおいて、アイヌ文化振興モニユメント「ヤイコタンフナラ」（自らの故地を探索）の設置記念式

典がありました。作者の工芸家貝沢徹氏や北海道アイヌ協会の関係者を招き、材料のセンノキを提供した雨龍研究林長も、総長、アイヌ共生推進本部長と共にカムイノミに参加しました。八月三十一日には、大学文書館内の北海道大学百五十年史編集室が『写真集 北大150年』を刊行しました。九月二十六日の創基百五十周年記念式典まで、いろいろな記念行事が続きます。

これまでの写真集の編集

北海道大学では、創基五十周年、百周年、百二十五周年に写真集を刊行しています。五十周年の写真集では、一九二六年当時の大学の状況を示す写真を掲載しました。



1955年の北13条通り（写真集から）

百周年に刊行した『写真集 北大百年』は、大学の百年を通観する写真集としました。附属図書館北方資料室所蔵の写真に加え、百年史編纂のために関係者から新たに提供を受けたものを合わせ、各時代の大学の様子を示す構成を取りました。

百二十五周年の写真集は、コンセプトをがらりと変え、キャンパス・建物・施設の変遷を示す構成としました。札幌・函館のキャンパス、農場・演習林などの付属施設の変遷を、写真（建物、図面など）・地図・年表をセットとして、視覚的に示しています。建物の写真が中心となり味気ないとの感想がある一方、かつての建物が現在のキャンパスのどの位置に建っていたかを一目にして理解でき、歴史的建造物の愛好家や、自身の学

生時代のキャンパスを思い起こしたい同窓生からはいへん好評です。

そして、『写真集 北大150年』

今回、新たに『写真集 北大150年』を編纂するにあたり、これまでの写真集との違いを出すために捻り出したコンセプトは、「読む写真集」です。各見開きを単位として、歴史的な項目を設定しました。例えば、「札幌農学校の開校」、「都ぞ弥生の時代」、「函館高等水産学校の独立」、「敗戦直後のキャンパス」、「北大紛争」、「大学が目指す多様性」といった具合に、百五十年の歴史を七十八の項目に構成しています。項目と掲載する写真には詳しい説明を付し、写真を見ながら解説を読んでもページをめくっていくと、北大百五十年の歴史が分かるようになっていきます。また、後半には、例えば、「クラーク像」、「ポプラ並木」、「植物園」などの項目を設け、同じ場所が時代によってどのように変化しているかを写真で示しています。埋蔵文化財調査センターの守屋豊人先生にご協力いただき、キャンパスのどこからどんな埋蔵文化財が出土したかを示すページも設けました。

もう一つ、『写真集 北大150年』では、人が写っている



2011年の古河講堂パープルライトアップ（写真集から）

る写真を意識的に掲載するように努めたことも特徴です。大学で学ぶ学生、研究する教員、働く職員、大学を訪れる人々です。北大の風景の中には常に人がいて、人が北大百五十年の歴史を形作ってきたと考えるからです。先に刊行したブックレット『北大と北大生の150年』とセットでご覧いただくと、より楽しめます。

『写真集 北大150年』は、北海道大学出版会から市販もされます。九月中旬ころには北大生協の店頭にも並び、十月以降、全国の書店でも求められるようになっています。ぜひ一度、手に取ってみてください。